

とある離島の診療所へ失われた記憶へ後編

ク
ア
ト
□

■作品概要

△サークル▽

癒し庵もち猫（シナリオ／効果音／音声編集…クアトロ）

△ジャンル／年齢指定▽

バイノーラル音声作品／全年齢

△作品ボリューム▽

120m 台詞文字数 14,281文字

△舞台▽

現代／とある島／聴き手の病室／ビーチ

■登場人物

△ヒロイン▽

名前 …天道縁（テンドウ ユカリ／27歳）

人物 …島の診療所に勤める医師／以前は大都市の病院に勤めていた

島民を愛し愛されている

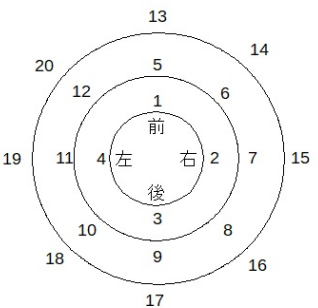
毎日聴き手の様子を見舞い、根気強く治療に向き合っている

快活な性格／誰に対しても優しく慕われている

趣味／特技…毎朝のジョギング（始めたばかり）／家庭菜園

△聴き手▽

患者 …島民／記憶を失くしている（27歳）



△台詞位置の指定図▽

図はマイクとの距離を示しています

1～4は30cm

5～12は50cm

13～20は1mを想定しています

距離が取れない場合、

こちらの音量調整等に対応します

1:7月18日 海の日朝（病室／朝）1199文字

（ドアを開閉する音）

（位置20／有声音）

おはよー♪

（縁の足音）

（位置2／有声音）

今日も天気がいいねーっ！

いやー、暑い暑いー♪

ねえ、知ってた？

今日は海の日、診療所もお休みなんだー♪

暑いけど、晴れてよかったね♪

でさ…、突然なんだけど…。

こんな日は…、ビーチにでも行って、気分転換してみない？

えー、だって随分前だけど、約束…、したじゃない？

なにつて、水着…、なんだけど…。

私、そのためにダイエットもしたんだ…。

で、どうかな？

ビーチ…、行かない…？

（位置2／有声音／小声）

そっか、行かない…か。

まあいいけどね♪

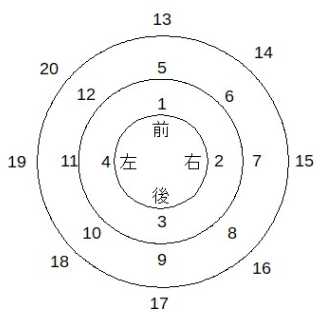
（位置2／有声音）

今日みたいな日射したとき、私（わたし）たち溶けちゃうかもだし？

あはっ♪

なーんってね♪

まあそれは冗談♪



さて…、世間話はこれくらいにして…。

今日も検温、するよー。

まーたそんな事言って…。

面倒でもやってもらうんだからね？

はい、体温計。

さっさと計っちゃってー。

(体温計の音)

(位置 2 / 有声音 / 小声)

ねえ…、私たちがこの島に来て、もう直ぐ一年経って信じられる？
だよねえ…。

この島に来た日…。

あの日もこんな風に日射しが強かったっけ…。

(縁の足音)

(位置 2 でマイクと反対を向きながら / 有声音)

ほら、君にも見えるでしょ？

窓の外はあんなにもキラキラしてる♪

(位置 2 でマイクと反対を向きながら / 有声音 / 小声)

真っ白いビーチに、どこまでも青い海…。

眩しいくらい…。

この島に来た日…。

あの日もこんな風に輝いてた…。

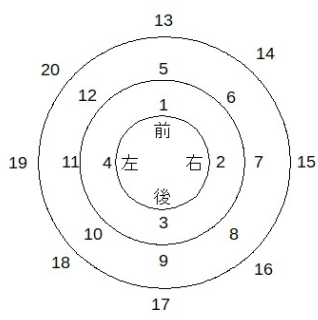
まるで…、私たちを歓迎してくれてるみたいに…。

(位置 2 / 有声音)

あ、ごめん、何でもないっ。

(体温計の音)

お、計り終わったね。



んーと…、今日も異常なしつと…。

あー…。

あのさ…、しつこい様だけど、海の日なんだし、ビーチ…、行かない？
私は行きたいなーって思ってるんだけど。

大自然に触れて、見て、感じたら、なにか変わるかも♪
なにして言うのはさ、ほら、君の記憶とか…。

それに、私の水着も見れるんだよ？

というか…、見て欲しい…、みたいな？

(位置二／有声音／小声／落胆したという感じで)

ああ、そう…、行かないつか…。

(位置二／有声音)

ああ、ううん、いいの。

無理矢理引っ張り出したりしないからっ。

あ、そうだっ♪

もし出かけるーってなったらさ、帰りにアイス買ってあげるよ♪
どう？

あはっ♪

ちよっと興味が出てきたみたいだね♪

君はホーント、昔っからアイスが好きなんだから♪

あ、そうだ。

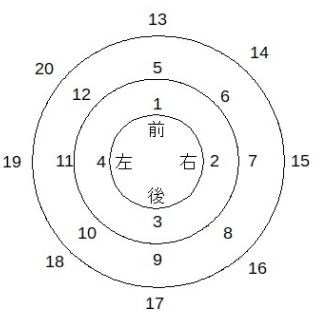
君がいま食べたいアイス、当ててみせようか？

えー、当ててみる？

へえ、やけに挑発的じゃん♪

じゃあさ、せーのでお互い思い浮かべてるアイス、言い合おうよ。
いい？

せーのっ！



「バリバリ君ソーダ味っ!」

ビンゴっ!

やったあ♪

へっへーん♪

これでも結構君とは長いからさ、好みはお見通しなんだよねー♪

あ、そうだ。

アイス正解したんだから、一緒に出掛けようよっ!

えー、いいじゃない。

まあ無理にとは言わないけどさー。

うーん…。

アイス…、二個でどう…?

流石にこんなんじゃ釣れないか…、あはは…。

へ?

いいの?

あ、ううん、何だか拍子抜けしちゃって…。

で、ホントにいいの?

そっか…、いいんだ…。

えーっと…、じゃあさ、一番近くのビーチでいいかな?

そう。

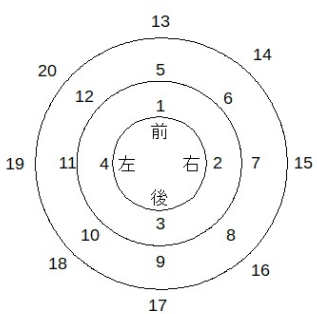
歩いて行ける距離の♪

うんっ、じゃあ決まりね♪

せっかくのお休みなんだしー、私も羽を伸ばすぞーっ♪

って事でー、私は水着に着替えて来るね♪

うん、じゃあ君は玄関で待ってて♪



2:7月18日 海の日ビーチ（ビーチ／午前）3598文字

（位置／有声音）

ふうー…、着いた着いたー。

ねえ、大丈夫？

暑さでバテてない？

そっか、ならいいんだけど。

それにしてもさ、相変わらずこのビーチは穴場だよね♪

島民ですら余り来ないみたいだし。

って事でー…、取り敢えず、日陰に避難しようか。

出かける前に日焼け止めは塗ったけどさ、

今日みたいな日射しじゃ、それでも日焼けしちゃう…。

（位置／で周りを見回しながら／有声音／小声）

んー…、日陰…、日陰…。

（位置／有声音）

あ、あのせり出してる木の下（した）にしない？

ほら、あそこっ。

ちようど二人入れるくらいの日陰になってる♪

よーっし、決まりね♪

（二人の足音）

まだ午前中だからか、人も居ない♪

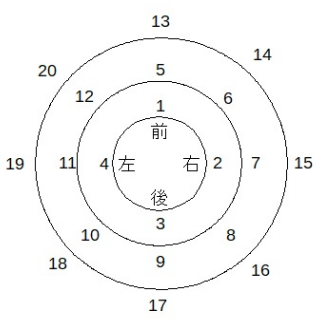
私たちの貸し切り状態だー♪

ラッキーっ♪

（位置／有声音／小声）

うーん、浜風のお陰もあって、日陰は涼しいっ♪

あ、座るの待って。



レジャーシート持って来てるから、敷（し）いちゃうね♪

（レジャーシートを敷く音）

はい、いいよー♪

ほーら、座って座って♪

（腰掛ける音）

（位置こ／有声音／小声）

よつと…。

（伸びをする） んん…、んんーっ…、はあー…。

えー？

言っただしょー？

羽を伸ばすんだって♪

だから伸ばしてるの♪

バツバツサ♪

どう？

羽、伸びたかな？

伸びすぎて、飛んで行っちゃわないかな？

あはっ♪

じょーだんっ♪

そんなに不思議そうな顔しなくてもいいじゃない。

もー、ほんとと君はなんでも真に受け取るんだからー。

あ、そうだ。

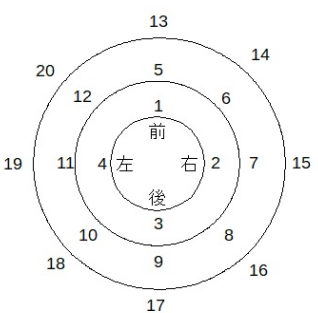
喉、渴いてない？

熱中症になっちゃったらいけないからさ、お茶、持って来たんだー♪

飲む？

オッケー。

んじゃあ、ちょっと待ってね。



(紙コップを取り出す音)

(紙コップにお茶を注ぐ音)

はい、どうぞ♪

冷たいから、頭キーンってならないようにね♪

私も飲もーっと。

(紙コップにお茶を注ぐ音)

(飲む演技) んっ…んっ…んっ…。

んー、冷たくって美味しーっ！

ね、持って来てよかったでしょ？

へっへーん、これが気の利くオンナってやつな訳よー。

ん…。

(位置1から5へ移動しながら／有声音／小声)

なーに驚いた様な顔してるのさー。

(位置5／有声音／小声)

まったくもー、失礼しちゃうなー。

私だってこれくらい気配り出来ますー！。

まあ君は鈍感だから、こういうのに疎いのは仕方ないね。

だって事実じゃない？

(位置5／有声音／かなり小声)

そう。

いつだってどんくさかった…。

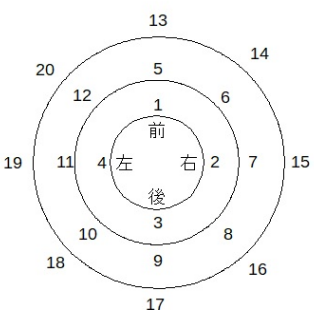
(位置5／有声音／小声)

ああ、ううん。

なんでもないっ。

あ、そうだっ。

忘れてもらっちゃ困るけど、水着、見てもらうんだからね？



あはっ♪

待ってましたって顔♪

なんだかんだで見たかったんじゃん♪

じゃあお披露目しちゃおうかなー？

どうしようかなー？

私ね、今日この日のために新しい水着を買ったんだー♪

どう？

わー、そんなに目をキラキラさせて、やーらしー。

まあどうせ、君くらいしか見せる相手、居ないし、

別に恥ずかしくないかなーって。

んでさ、どうせ見せつけるために買うなら、気合入れたくなるじゃない？
なるのっ、いいのっ。

だからその…、ちゃんと見て欲しいなーなんて…。

あー、見て欲しいって言うのは…、特に深い意味はなんだけど…。

ってか、何だか私に変な人みたいじゃないっ！

と、とにかく…、可愛いのが買ったから…、見て…？

うん…。

じゃあ…、パーカー脱いじゃうね…。

(ファスナーを下ろす音)

どう…、かな…？

年甲斐もなく黒のビキニ…、買ったちゃったんだけど…。

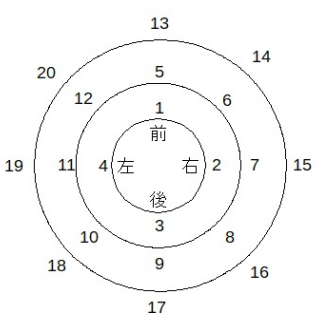
派手すぎない…、かな…？

ホントっ？

えへへっ…、そっか…、似合ってる…、か…。

(位置5／有声音／かなり小声)

ヨッシャーっ！



(位置5／有声音／小声)

ああ、ううん。

何でもないよー♪

え、何？

一周回って欲しい…？

んー…、別に構わないけど…。

こんな機会、滅多にないし、まあいつか…。

じゃあさ、ぐるっと回るから、目に焼き付けてよねっ！

(縁が経ち上がる音)

んじゃあ、いくよー？

(位置5で一周回りながら／有声音／小声)

ぐるー…ん。

(位置5／有声音／小声)

どうでしょう？

この結び目がリボンになってるの、すっごく可愛くない？

だよね♪

これが選ぶ決め手だったんだー♪

えっ…、そんなに似合ってる…？

そっかそっか…。

えへへ…、買ってよかったね…。

へ…？

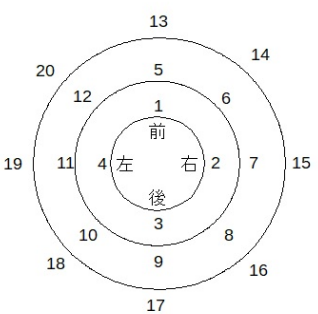
このリボン…、引っ張る…？

バーカっ！

そんな事したら、水着が脱げちゃうに決まってるでしょっ！

もうっ、エッチ…。

あーでも…、ビーチには誰も居ないし…、今なら或いは…。



なーんて、冗談っ♪

君、鼻の下伸ばしちゃって、ホーント分かりやすいっ♪

ああ、ごめんごめん…。

ちよつと悪ふざけが過ぎたね…。

怒った…？

そっか、じゃあいいんだけど。

え、なに？

あー、私は泳がないつもりで来たから。

君が泳ぎたいなら、いいよ、行つてきな。

水着なのにつて…。

ああ…、私は足だけ入つて、涼めればいいかなーつて…。

え、水着の必要性…？

(少ししんみりした感じで／ゆっくり)

それは…、その…、君に見せるためだけ…、つて言つたら変かな…？

だって…、約束した日…、あんなに嬉しそうな顔してたから…。

だったら、私だつて期待に応えなきゃつて…。

それでその…、気合入れて来たんだけど…。

ちよつと空回りしちゃったかな…、あはは…。

でもねっ…、私…、水着姿を君に見てもらえて…、よかったって思つてる…。

あー…、いい方が変かな…？

これじゃ私がただの変な人みたい…。

でもいいの…。

こうして見せられた事で…、なにかが変わるかもしれないから…。

へ？

ああ…、確かに…。

医師が患者に対して、なに言つてんだつて話だよね…。

(ここまで少ししんみりした感じで)

(から元気といった感じで)

まあいいじゃない♪

それに君ー？

私の水着姿が見られるなんて、すっごくレアなんだからさ、感謝してよねっ。

(ここまでから元気といった感じで)

へっ？

膝…枕…？

なんでいま、膝枕の話が出てくるのさ？

して欲しいって…。

ここで…？

あー、君さ、もしかして太もみにスリスリしたいだけなんじゃないの？

黙ってるって事は凶星なのかなー？

どうなのー？

へ…？

一生のお願い…？

参ったな…。

そこまで言われると…、なんだか断りづらいじゃない…。

んー…、いいけど…、膝枕、するだけだよ？

ほら、ここ、おいで？

(膝に寝転ぶ音)

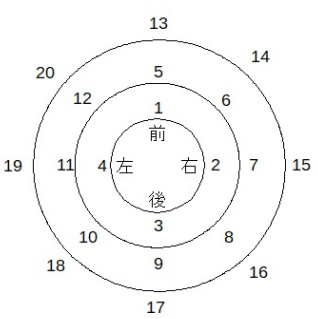
(位置／有声音／かなり小声／ゆっくり)

んでー？

突然どうして膝枕な訳ー？

水着だから…？

なにそれ…。



やっぱり太もが目当てだったんじゃない…。

まあいつか♪

今日は特別に天才医師、天道縁の太もを君に差し出そうっ♪
感謝してよねー。

こんな事、滅多にない、「トクベツなコト」、なんだからっ。

あ、そうだっ♪

特別ついでに、もーっとイイコトしてあげるっ♪

(耳ふー) ふー…。

あはっ♪

ビクってした♪

そう、君の大好きな、耳ふー♪

(耳ふー) ふー…、ふー…。

こーら、動かないのっ。

それともなに？

膝枕、やめちゃう？

ふふっ♪

素直でよろしい♪

んじゃあ、そのままジッとしてて…

(じばくぐ耳ふーはー／休憩しながら収録下さい)

ふー…。

ふっふー…。

ふっふっふっ。

ふー…。

ふー…、ふー…。

ふー…。

ふっふっふー…。

はー…。

はー…、はー…。

はっはー…。

はっはっはー…。

はー…、はー…。

はー…。

はー…。

(位置2／有声音／かなり小声／ゆっくり)

あはっ♪

「ふー」だけじゃなくて、「はー」もしてみたよ♪

どうだった？

太もも最高…？

あのね…、そっちじゃなくてっ！

って、まあそっちでもいいんだけど…。

あれ？

いいのか？

まあどっちでもいいいや。

んでー？

耳ふーの方はどうなの？

お替り…？

なにそれ…♪

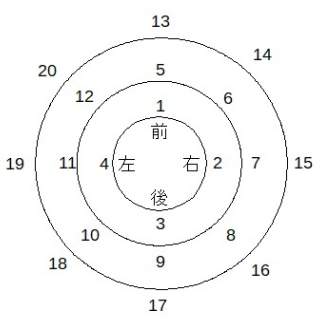
私の耳ふーを、食べ物みたいに言わないで下さい。

そんな言い方すると、ホントに食べちゃうんだからね？

(声を抑えて耳を噛む擬音) ガブガブガブ。

ぷふっ。

そんなに身構えちゃって、ホントに噛む訳ないでしょ♪



いくらなんでも、そこまでしませーん♪

私は医師、君は患者。

そのこの所、ハッキリさせておかないとね♪
当たり前じゃない。

だから、この膝枕だって特別なんだからっ。

(**眩く様に**) そう…、トクベツなんだよ…。

ああ、ううん。

深い意味はないよ？

うん、ないない。

…続きっ！

そう、続きしよ？

え？

反対側？

ああ、いいよ。

んじゃあ、ゴロンと寝返りしてね♪

(**寝返りの音**)

(**位置々／有声音／かなり小声／ゆっくり**)

んじゃあ、こっちもしていくね♪

(**じばく耳ふーはー／休憩しながら収録下さい**)

ふー…。

ふっふー…。

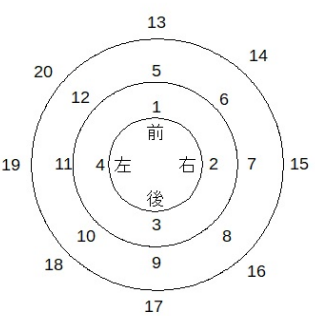
ふっふっふっ。

ふー…。

ふー…、ふー…。

ふー…。

ふっふっふー…。



は……。

は……。は……。

はっは……。

はっはっは……。

は……。は……。は……。

は……。

は……。

(位置／有声音／かなり小声／ゆっくり)

ねえ……。

こんなに君に近くて……。二人つきり……。

他の人から見たらさ、カップルだと思うだろうね……。

うん……。そうじゃないって事は分かってる……。

でもいまはさ……。いまだけはそういう事にしてくれないかな……？

そう。

これもトクベツっ♪

海の日限定、水着彼女ー♪

なんてねっ♪

もー、なんか言ってよ……。

言った私が恥ずかしいじゃない……。

ってかさ、君だってホントは嬉しいくせにっ♪

ほーら、凶星じゃんっ。

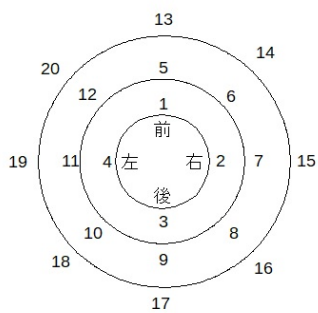
うつそだー。

だって、目がスイスイ泳いでるもんっ。

じー……。

ほら、スイスイって泳いでるっ。

あはっ♪



わっかりやすい♪

ほらー、正直になりなよー♪

(耳ふー) ふー…。

それともー…、私じゃ不満…、かな…？

(耳はー) はっはー…。

聞かせて欲しいな…。

そっか…、そうだったら嬉しい…、っか…。

じゃあさ…、私たち…、その…。

え？

ああ…、そうだね…。

医師と患者…、だったね…。

あはは…、君に言われちゃうとは、情けないな…。

んじゃあ、イイコトタイムはそろそろ終わろっか？

うん、起き上がって？

(起き上がる音)

(位置5／有声音／小声)

え、またして欲しいって？

いいけど…、いまさっき言った事と、少し矛盾してない？

ふーん、物は言い様だよねー。

ま、いいけどねっ。

うん、して欲しい時にしてあげるから、言ってよ♪

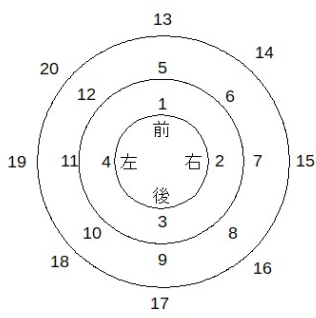
んじゃあ、もう少し波の音を聞いたら、帰ろっか？

ああ、そうだね。

帰る時でいいから、少しだけ。

うん、海に入りたい。

あ、私は、足だけでいいから♪



君は？

そっか。

まあ、いつでも来れるし、泳ぎなくなったらまた来ようよ♪

あ、喉渴いてたら言ってね。

え？

ありが…とう…？

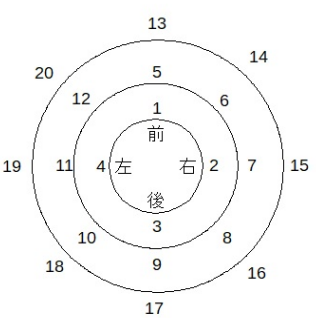
なにさ…、急に…。

あー…、どう…いたしまして…？

なんか照れる…。

なんでって…、もう…、バカ…。

知らない…。



3：10月31日 ハロウィン（病室／夜）3734文字

（ドアを開閉する音）

（位置20／有声音）

ハッピーハロウィンっ♪

（縁の足音）

（位置5／有声音）

お菓子をくれなきゃイタズラしちゃうぞー♪

（位置5／有声音／小声）

しちゃう…、ぞー…。

ねえ…。

ボーっとしてないで、なにか言ってよっ！

なにがって、この格好、コスプレしてるのっ！

見て分からない…？

(ため息) はあ…。

あのねー…、今日はハロウィン。
年に一度の収穫祭なの。

で、私は気合を入れて、魔女コスをしてきた訳。

ほら見て♪

可愛くない？

(得意げに) ふふん♪

ん…。

あー…、あのさ…。

君が魔女のコスプレ衣装が好きって言うから、着てきたんだけど…？
なにか言ってくれないと、気合を入れて来た私が恥ずかしいじゃない…。
ほら、フリフリが付いたスカート…。

フリフリ…。

ねえ…。

そんつなに私のコスプレに興味ない感じ？

夏に話した時は、あんなに乗り気だったのに…？

あつ…、そうなんだ…。

ないんだ…。

オツケーオツケー…。

慣れてる慣れてる…。

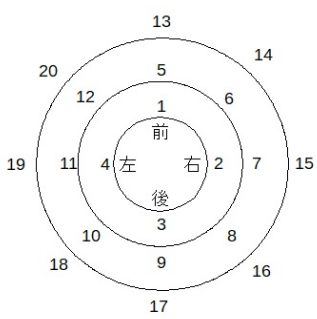
(位置5／有声音／かなり小声)

(咳払い) う、うんっ。

お菓子をくれなきゃ、イタズラー…。

しー…。

ちやわないかもしれないので…、もっと見て欲しいなー…、なんて…。
ん…。



(位置5／有声音／小声)

あ、いいんですか？

見てくれないなら、もう着替えちゃいますけど？

せっかくのコスプレ衣装、着替えちゃいますけどー？

へ？

寒そう…？

で、出たーっ！

身も蓋もない、一番タイ指摘っ！

あのね…、確かにそりゃ寒いよ…？

肩はスースーするし、スカートも短いし…。

でもさ…、君が見たいって言ったから、一生懸命これを選んだの…。

少しくらい褒めてくれてもいいじゃない…。

へっ…？

かわ…、いい…？

そう…？

えへ…、えへへ…。

ああいけない…。

んで？

可愛いのに、もっとないの？

へいへーい、カモーン♪

ビビッてんのー？

おー？

どうなのー？

あ、ないんだ。

そっか、ないんだ…。

ううん、いいの。

慣れてますから、はい。

あー…、えーつと…、着替えた方がいい…？

そう、じゃあこのままで居るけど。

ねえ…、イタズラしちゃうぞー…。

はい、黙ります。

えーつ、なにっ？

待って待って？

こわいこわい。

なにっ、この温度差っ、なにっ？

うつそでしょ？

いくらなんでも冷め過ぎじゃない？

季節のイベントっ。

楽しみじゃないのっ？

あ、そうですか。

はーい、今度こそ黙りまーす…。

んん…。

(黙りません) んでさあ、褒める事はなくても…、なんかこう…、ね…？

この格好でして欲しい事…、とか…？

君との距離がグーっと近付く…？

耳…？

かきっ。

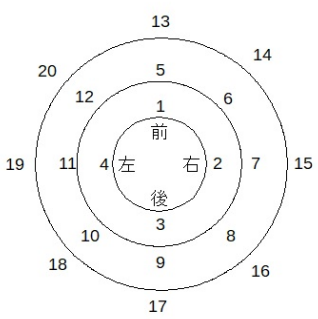
そうっ！

耳かきっ！

え…、耳かき…？

また…？

違うけどまあいいや…。



んじゃあさ、今日はアレ使おうよ。

ほら、この前通販サイト見ててさ、これ面白そうって、買った耳かき棒♪
なんか先がブラシ状になってるやつ♪

あんなの初めて見たなー。

(縁の足音)

(位置からに移動しながら有声音／小声)

えーっと、どこに置いてたっけ…。

(位置有声音／小声)

ああ、あったあった♪

って、まだ開封してなかったんだ？

そっか、私にやってもらうから…、つか。

てか、やってもらう気満々じゃない♪

まあいいけどねー。

ほら、こっち、おいで♪

(ベッドに寝転がる音)

(位置有声音／かなり小声で台詞ゆっくり)

ちよっと、あんまり顔を膝に押し付けないでっ。

生足だから、くすぐりたい…。

こーらっ、わざと押し付けないのっ！

もう、君ったら反応は薄かった癖に、実は嬉しいんじゃない…。

まあいいや。

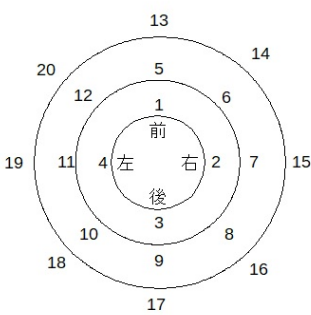
んじゃあ、耳かきしていこうね♪

どれどれ…、新しい耳かき棒はどんな感じかな…、っと。

おおー。

なんだかプチプチ鳴ってるけど、これ気持ちいい？

そっか。



かなり独特な音だけど、してもらってる君が気持ちいいならそれでいい♪
てかさ、こんなんでもントに、耳の汚れて取れるのかな？

だって見た目はなんか…、トゲトゲしてるだけだし…。

んーっと…、どれどれ…。

耳の汚れは…、っと。

あ、あった。

んん…、ん…。

おおー、取れた♪

へえー、取れるんだ。

え？

ああそうだね。

じゃないと耳かき棒って名称で売っちゃ駄目だよね、あはは…。
成程ねー。

実用性だけじゃなくて、気持ちよさも追求した結果が、これなんだー。
耳かき棒ってさ、いろんな種類があるじゃない？

例えば…、竹だったり、金属に…、プラスチックとか♪

それだけじゃなくて、先端の形も様々だし。

今使ってるこれも新鮮♪

少し前には、先端がバネみたいになってるのもあったよね♪

君は耳かきしてもらうの好きだからさ、色々と試してみたい♪

そうだよ、私だって興味あるもん。

君がどういう反応をするんだろうってね♪

そう。

耳かきストゆかりが、君の反応次第で気持ちいい所をえいやーってやるの♪
え？

怖い？

大丈夫だって♪

なんとかなるって♪

そう、えいやー、とおーってね♪

うー、そりゃっ。

ほいつ。

とりゃっ。

どう？

怖くないでしょ？

ないよね？

でしょー？

やっぱそうだよねー。

え？

言ってない？

ああ、大丈夫。

君の心の声が聞こえたから。

そう、心の声で気持ちいいって。

しかと受け取りました。

ピピピ…。

あ、また受け取った♪

早く続きをしてくれーって♪

どう、合ってるでしょ？

ほらーっ。

やっぱりねー♪

そうなんじゃないかと思ったんだー♪

え？

あっはい、続きね…、続き…。

ピピピ…。

あ、こつちの続きじゃない。

ですよー。

えー、なあに？

楽しそう？

当り前じゃない。

季節のイベントは、楽しまなくちゃ♪

中には異議を唱える人も居るけどさー、私としては楽しければいいかなって。
君は？

こういうイベントとか興味ない？

なーんだ、興味あるんじゃない♪

あれ？

ってことはー、君もコスプレしたかった？

あー、そっかー…。

そうしたら事前に聞いておけばよかったねー…。

ごめんごめん。

でも今回はさ、リクエストに応えたんだから…、許して♪
んで、こうしよ♪

来年は、二人でコスプレして、お祝いしようっ♪
ね？

うん、決まり♪

やつぱり君、お祭り行事が好きなんだねー♪

ああ、なんでもない。

気にしないで♪

あ、そろそろ梵天ー…。

そういえばさ、この耳かき棒、梵天が付いてないやつだ…。

あー…、そうだね。

梵天だけいつもの耳かき棒で…。

よし、いくよー♪

ふわふわー…。

ふーわ…、ふーわ…。

(耳ふー) ふー…、ふー…。

ふわー…、ふわー…。

(耳ふー) ふー…。

ふわっ…、ふわっ…、ふわわー…。

(耳ふー) ふっふっふー…。

よーし、こっちはおしまい♪

次、反対側、やるよ♪

(寝返りの音)

(位置～／有声音／かなり小声で台詞ゆっくり)

よーっし、こっちもガッツリやっちゃうからね♪

ああ、いいのいいの。

そんなに身構えないで？

ほれほれ、肩のチカラ抜いてー？

オッケー♪

ではでは、いってみよー♪

プチプチー…。

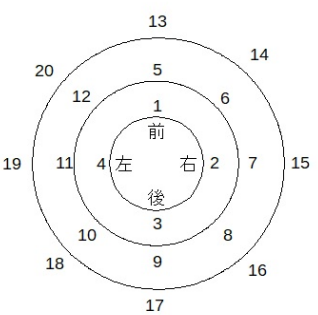
プチ…、プチ…。

おー、結構取れるねー…。

もしかしたら、いつもの耳かき棒より、取れてるかも？

ねえ、どうする？

今後この耳かき棒でする？



ふふっ♪

そっか…。

色んな刺激が欲しい…、つか。

流石は耳かきソムリエですなあー。

え？

そうだよ。

君はソムリエ、私は耳かきスト。

最強のコンビって訳。

(小芝居)

ほう…、ブラシ状の耳かき棒…、とな？

これは…、ふむ…。

ブラシの突起、一つ一つが耳穴の壁を刺激。

つまり、きもていーという事…。

中々考えられていますなあ…。

して、ソムリエ殿…。

心地はいかがかな？

ふむ…。

ふむふむ…。

やはりきもていー…、と。

ではソムリエ殿…。

このきもていー耳かき棒の星は…、いくつですか…？

ゴクリ…。

あーっと、出たー。

これまでに一回…、あー…、二回くらいしか出ていない、星五つだーっ。
ちなみに最大で星三つです…。

ということは、つまり…。

殿堂入りっ、殿堂入りですっ！

やりましたっ。

やりましたっ、ブラシ耳かき棒パイセンっ。

パイセン、いまの心境を一言でお願いします。

(低い声で) 昨日(きのう)の夕食は、生姜焼き定食でした。

パイセン、それはただの報告だーっ。

しかも凄くどうでもいい情報っ。

いまの報告、ソムリエ的にはどう評価しますか？

今夜は…、生姜焼き定食？

あーっとソムリエ、食べたくなっちゃってしまっているーっ。

影響されやすいソムリエ、それでいいのかーっ？

おっと、残念ですが、そろそろお別れの時間です。

それでは皆さん、次は耳かきピックアップでお会いしましょう。

(ここまで小芝居)

んん…。

ねえ…、なにこれ…。

あー…、確かにやり始めたのは私だけど…。

にしても小芝居、長くない？

結構喋ったよ、私。

てか君もノってきてたし♪

んでー？

今日の夕飯はもう決まりっぱいね？

はいはい、生姜焼きね♪

任せてよー♪

飛びつきり美味しいの、作っちゃうんだから♪

んじゃあ、もう少し続き、やっていくねー。

プチ…、プチ…。

プチ…、プチ…。

ゴソ…、ゴソ…。

ゴソ…、ゴソ…。

ん……。

うん。

綺麗になったよー♪

こっちも梵天ねー。

ふわ…、ふわ…。

(耳ふー) ふー…。

ふわふわ…。

(耳ふー) ふっふっ…。

ふーわ…、ふーわ…。

(耳ふー) ふー…。

ふわっ…、ふわっ…、ふわわ…。

(耳ふー) ふー…、ふー…。

はーい、おしまい♪

魔女コス耳かき、どうだった？

えー、毎回は無理ー。

だってさ、着替えなきゃいけないじゃない？

それにこれからもっと寒くなるし…。

あ、そうだ♪

寒くなつて、年末にあるものと言えばなーんだ？

そうっ♪

クリスマスー♪

当日はどうでしょうか？

なにかでお祝いする？

例えば…、チキンとか、プレゼント交換とか♪

えー…。

なにかしようよー。

私だって医師である前に、一人の女性。

クリスマスって特別な感じがするからさ、なにかしたいのー。

お好きにどうぞって…、君ね…。

あ、いいの？

チキンとケーキ、私一人で食べちゃうよ？

へ？

太る…？

確かに…。

あー、もうっ。

んじゃあ、なにか考えておくからっ。

(拗ねる様に)

あ、でもさ、思いついても教えてあげない。

知らない。

精々当日まで、ヤキモキすればいいんじゃないかなー？

ふーんだっ。

覚悟しておいてよねっ！

(ここまで拗ねる様に)

4：12月24日 クリスマスイヴ（病室／夜）1300文字

（ドアを開閉する音）

（位置20／有声音）

メリークリスマスっ♪

（縁の足音）

（位置5／有声音）

じゃーんっ♪

セクスイーゆかりサンタだよー♪

どうどう、似合ってる？

え？

クリスマスは明日…？

あー…、確かにそうなんだけど…、そのー…、早く見せたかった…、的な？
えっとね…。

ハロウィンの時に、コスプレしたじゃない？

それでその…、結構楽しくなっちゃって…。

今日のために、また新しく買っちゃった…、みたいな…？

（位置5／有声音／かなり小声）

だから君も付き合ってっ！

（位置5／有声音）

おほんっ、では改めまして…。

じゃーんっ♪

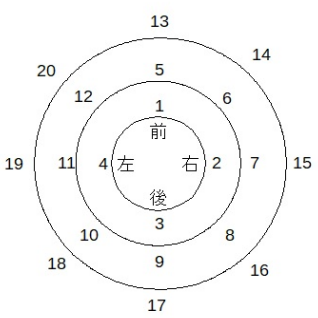
セクスイーゆかりサンタだよー♪

ここの子はー、いい子にいましたかー？

（位置5／有声音／かなり小声）

そうっ、君だよ、君っ。

君しかないでしょっ。



(位置5から2へ移動しながら／有声音／小声)

もう、いちいち流れを止めないでよねー。

(位置2／有声音／小声)

君のノリが悪いと、私が恥ずかしいじゃない…。

でー？

君はー、いい子にしていたのかなー？

ほほーう、いい子にしていた…と。

ではそんな君には、プレゼントをあげようではないかー。

なにか欲しいものを一つだけ言ってみてごらん？

むむっ！

添い寝…、となっ？

成程、成程…。

ん？

そんなんでいいの？

(落胆した様に)

あのね、クリスマスだよ？

サンタコスだよ？

もっとこう…、欲に正直になってもいいと思うんだけど…？

え？

それ以外要らない…？

あ、そう…、はい…。

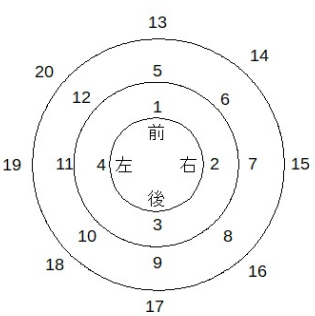
(ため息) はあ…。

(ここまで落胆した様に)

あのね…、せーつかくセクスイーなサンタコスをして来たの。

もうちよつとそこに食い付いてくれてもいいんじゃないかなー…、なんて…。

へ…？



寒そう…？

またそれ言う…？

へえ…、言っちゃうんだ…。

あー…、そう…、だね…。

確かに寒いね…、色々…。

あーははっ…♪

で、えーつと…。

添い寝…、だっけ…。

オッケー。

添い寝ね…。

んじゃあ、早速ベッドに入ってもいいかな…？

はーい…、お邪魔しまーす…。

(縁がベッドに入ってくる音)

(位置／有声音／かなり小声)

おほー…、あったかー…。

こんな格好で来ちゃったから、手も足も冷えちゃっててさー…。

君が添い寝を希望してくれて、むしろ助かったねー♪

(しんみりした演技)

あつ…。

そういう事だったんだ…。

ああ…、その…。

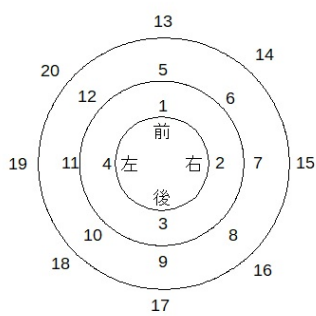
添い寝して欲しいって言うてくれたのは…、私のため…、だったとか？

やっぱり…。

そうだったんだ…。

その…、ありがと…。

私…、こんな性格だから…、君の優しさに気付けない事…、結構あるね…。



あとから気付いて…、嬉しくなって…、切なくなる…。
変だよね。

私と君は、医師と患者…。

それだけの関係…。

分かってるの…。

でも…。

うん…、これ以上はやめておこう…？

そう…、私は医師…。

君の記憶を取り戻すのが役目なんだもんね…。

それを見失ったら駄目…。

(ここまでしんみりした演技)

って事で、この話はお終いね♪

えーっと、添い寝って事は…、このままもう寝ちゃう？

オッケー。

じゃあ少し早いけど、寝よっか♪

うん、お休みなさいっ♪

…。

ねえ…、ギュってしたら…、駄目…、かな…？

あー…、その…、なんとなくそういう気分と言っか、何と言っか…。

いいの？

じゃ、じゃあ…。

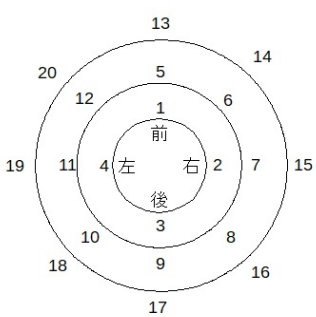
(縁に抱きしめられる音、心音)

(位置／有声音／かなり小声)

苦しく…、ない…？

そっか…、よかった…。

え？



ああ…、うん…、なんだかドキドキしちゃって…。

心臓バクバクしてる…。

そんなに聞こえる…？

そう…、なんだか恥ずかしい…。

ううん…、いいの…。

このままで居させて…？

ありがと…。

ねえ…、君はさ…。

もし記憶が戻ったら…、どうしたい…？

うん…。

うん…。

そっか…、戻るといいね…、記憶…。

あ…、そうだね…、余りお喋りしてたら眠れない…。

うん…、お休み…。

(心音)

(心音にエフェクト)

(心音フェードアウト)

5:12月25日 クリスマス(病室／朝) 5750文字

(位置5／有声音／かなり小声)

んん…、うーん…、んー…、ふう…。

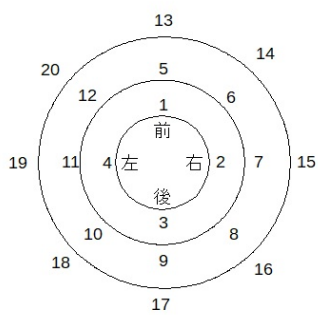
ああ…、おはよ…。

私もいつの間にか寝ちゃってたみたい…。

君は…？

ぐっすり眠れた…？

ん？



どうしたの？

真面目な顔しちゃって…。

ゆかり…？

ふう…。

こーら、縁先生、でしょ？

いくら二人きりだからって、忘れてもらっちゃ困る…。

(位置／有声音／かなり小声)

(縁に抱き着く音)

きゃっ！

ちよっ…、どうしちゃたの…？

怖い夢でも見た…？

へ…？

思い出した…？

う、嘘…。

え、ちよっと待って…。

思い出したって、記憶が…？

嘘…。

嘘……。

ホントに思い出したの…？

えっと…、じゃあ…、医師として確認するね…。

君の名前は…。

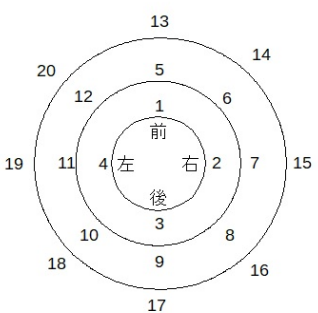
次…。

君の生年月日…。

次…。

(恐る恐るといった感じで)

じゃあ最後に…。



私の事…、分かる…？

(ここまで恐る恐ると言った感じで)

そう…。

全部合ってる…。

私は天道縁。

職業、医師。

そして…、君の…、婚約者…。

ホントに思い出したんだ…。

どうして…。

なんで急に…？

うん…。

うん…。

心音が…？

(考え込む様に)

そんな単純な事で…。

ううん、でも人の脳は解明されてない事の方が多い…。

なにが引き金で記憶領域が刺激されるか分からない…。

だったら、心音が引き金になったと考えるのが妥当か…。

(ここまで考え込む様に)

ああ、ごめんね。

ついつい癖で考えこんじゃって。

そっかそっか…。

ああ、えつとね、今まで色々と試したんだ…。

直ぐには無理かもって思ってた…。

けど、やらないよりはいいかなって…。

そこでね…、追体験をしてみようって考えたの…。

(思い出話をする様にゆっくり)

先ずはこの島…。

そう…、君の故郷…。

君が幼少期、ご両親と暮らしていたこの島…。

ここに来れば何かが変わるかもって…。

二人で移住したのが始まり…。

記憶がない期間の事…、覚えてる…？

そう。

二月十四日…、そうバレンタインデー。

この日はね…、君と私が出会った日なの…。

あー…、正確には、君が私を認識した日だね…。

そう言った方が正しいかな？

あれは私が以前勤めていた病院…。

そう…、あの大きな病院ね。

私は医師…、君は医療器具メーカーに勤めるセールスマン…。

君が来る度…、目で追ってる私が居た…。

ああ、惚れちゃってるなって思ってたっけ…。

それである日…、チョコレートを用意した…。

そしてさり気なく渡した…、つもりだった…。

「いつもお疲れ様。これどうぞ」って。

君…、ビックリしたって顔の後に、ニコッと笑って…。

「義理でも嬉しいです」って…。

本命なのにつて、心の中で叫んだ…。

けど君には届かなかった…。

あの時に渡したチョコね…、手作りだったんだ…。

私ったら医療器具は上手く扱えるのに…、調理器具は点で駄目…。

何度も作り直したの…、今でも覚えてる…。

本気で好きですって伝えたかった…。

でもそこまで勇気が出なくて…。

それから一ヶ月…、君が訪れる度にドキドキしちゃって…。

ホワイトデーまでモヤモヤしてたんだ…。

待ちに待ったホワイトデー…。

私ったら、思春期の子みたいにソワソワしちゃって…。

その日、君が来るって分かってたから、余計に落ち着かなかった…。

いざ来てみたらガッカリ…。

だって君、ホワイトデーなんて、そっちのけだったんだもん…。

いつも通りの君だった…。

「こんにちは、今日は寒いですねっ」って…。

君ったらなんにも気付いていない風で…。

わざわざホワイトデーって事を言い出す訳にもいかなかったし…。

「そうだね」って答えるしかなかったな…。

君はあの頃からどんくさかった…。

でね、想っているだけじゃ駄目だって気付いたの。

だから言葉に出して言う事にした。

それがちょうどエイプリルフル…、四月一日だった…。

今度は私がすっかり忘れてた…。

君が訪れた時に通路に引っ張り込んで…、

驚く君に「好きです」って勇気を出して言った…。

そしたら君、笑いながら「エイプリルフルですか」って…。

初めてその日がエイプリルフルだって思い出して、そして後悔した…。

君がどんくさいって忘れてた事…。

そして自分のうっかりさ加減を呪った…。

それで私ったらすっかり落ち込んだじゃって…。

本気だよって言いたかったけど…、言うタイミング、のがしちゃった…。

それからしばらくは…、君の事は目で追うだけだった…。

所がそれは突然訪れた…。

あれはそう、夏の初め頃…。

いつも通り君の事を目で追ってた…。

そしたら突然こちらに歩み寄って来て、君から話しかけてくれた…。

「最近暑くなりましたね」って…。

私は「そうね」って素っ気なく返しちゃったけど、

内心は飛び上がる程嬉しかった…。

目で追うだけしか出来ない人が、向こうから話しかけてくれんだもん…。

浮かれていたら君、「あの、いつも僕の事見てませんか」って…。

そこでもったって思ったっけ…。

来る度に目で追って…、見えなくなると見える位置まで移動して…。

まるで学生が好きな子を追うみたいに見てて…。

そりゃバレるよねって…。

言い訳を考えていたら君、「今度、海に行きませんか？」って…。

余りに唐突だったから…、しばらく意味が呑み込めなくて…。

それで私、認識が不明瞭なまま「はい」って返事しちゃって…。

その後まだ君が話してるのに、私よく聞いていなくて…。

そして気付いた…。

さっきのはデートのお誘いなんだって…。

そしたら急に嬉しさと、恥ずかしさが入り混じっちゃって…。

私、その場から逃げちゃったよね…。

その日ウチに帰ってから、冷静になってみたんだ…。

君から誘ってくれたって事は…、脈ありなんだ…、って。

そこでとある事に気付いた…。

海って事は水着じゃんっ…、って。

それで部屋の中で右往左往しちゃって…。

最初のデートで水着っ？

あわわ…。どうしようって…。

それに私、水着を着るの、学生以来だったし…。

だから流行りとか全然知らなくて…。

ネットでめっちゃその年のトレンドとか調べたんだ…。

で、きたる海デートの直前、覚えてる…？

そう。

カフェで待ち合わせて、海デート当日の再確認をしてた時…。

君、急に真剣な顔をして、「好きです」って…。

話の流れを遮って来たもんだから、私啞然としちゃって…。

私としてはもう、君しか考えられないってくらい好きになっていたから、

「私もです…」そう答えるほかなかった…。

少しの沈黙のあと、君、「エイプリルフルじゃないですよね？」って。

そこで全部理解した…。

エイプリルフルの時、私が「好きです」って言った事…。

君は本気って事に気付いてたんじゃんって…。

君はズルい…。

私の気持ちを知っていながら…、そんな気も見せないで居たんだもん…。

でもね…、そうは思ったけど…、嬉しかったよ…。

うん…。

お互い同じ気持ちなんだって…。

片方の想いだけでは…、叶わない事だもん…。

嬉しかった…。

だからこそ「付き合って下さい」って言えた…。

君は「勿論」って、そっと手を握ってくれた…。

嬉しくて、照れくさくて、嬉しかった♪

そう、嬉しいが二つ付くくらいだった…。

で、海デート当日…。

気合を入れた水着に、君は大興奮♪

鼻の下伸ばしちゃってさ…。

まあ？

私としては、してやったりって感じだったけどねー♪

君ったら、海に来たのに泳ぎもせずに、私の事を見てたよね♪

「泳がないの？」って訊ねたら、「それどころじゃないっ！」「って♪

結局大して泳ぎもせずに、波の音を聞いて帰っちゃったっけ…。

でも楽しかったんだよ？

だって好きな人が、私を見て嬉しそうにしてるんだもん♪

私だって嬉しかったよ…。

そうこうしている内に、夏も終わっちゃって、

付き合い始めて三ヶ月…。

そうハロウィン…。

君は事前に「興味ない」って言うってたから、そっかーって思ってたのに…。

当日ウチに帰ったらビックリっ♪

部屋中が飾り付けされてて、君もドラキュラのコスプレしてて、準備万端♪

騙されたーって思ったけど、嬉しいサプライズだった♪

私も用意してた魔女のコスプレに着替えて、楽しかったよね♪

君があんなにはしゃいでるの、初めて見たかも♪

そんな楽しい日も終わっちゃって…、冬本番…。

寒いけど…、ウキウキする季節…。

そう、クリスマス♪

君と付き合ってから初めてのクリスマスだったから、すっごく楽しみで…。

ケーキは？

チキンは？

レストラン予約する？

って色々質問攻めにしちゃって…。

どうせならどっか泊まりに行こうか？

って話も出たっけ♪

結局はウチでゆっくりする事になったんだよね♪

チキンとケーキを食べて…、幸せだった…。

なのに君ったら…、どこか上の空で…。

どうかしたのって聞いても、「何でもない」の一点張りで…。

うん…、明らかにあの時は様子が変だった…。

そう思っていたら、「駅前のツリーでも見に行かない？」って言い出して…。

「寒いけどいいの？」って言ったけど、君はもう行く気満々で…。

駅前に着いて、流石はクリスマスだなんて思ったっけ…。

ツリーの周りはカップルや、待ち合わせの人たちで一杯だった…。

でも不思議だったんだよね…。

いつもは人混みとか避けてる君が、どうしてここについて。

でもその答えは直ぐに分かった…。

君…、突然私をグッと抱き寄せてきて…、耳元で「結婚して下さい」って…。

一瞬何が起こったか分からなかった…。

人混みだったし、聞き間違いかも思った…。

ううん、違う…。

信じられなくて…、嘘みたいで…、でも嬉しくて…。

心の中がぐちゃぐちゃに入り混じっちゃって…。

どう返したらいいのか、直ぐに出て来なかった…。

でも次第に君に言われた言葉が、心の中で鮮明になって来て…。

気付いたら涙がポロポロ頬を伝ってた…。

ああ私、プロポーズされたんだって…。

そう思った瞬間、周りの喧噪がまったく聞こえなくなつて…。

しばらくのあいだ、静寂が訪れた…。

そう…、あの場は君と私だけの世界になった…。

ああ…、返事…。

プロポーズの返事をしなきゃって思ったけど…、言葉が出て来なかった…。

心の中では嬉しい気持ちと、幸せな気持ちで溢れていたのに…、

言葉を紡ごうとしたけど、どうしても出来なかった…。

だから凄く簡単な返事になっちゃったよね…。

ただ一言。

「はい」って…。

でも君にとって答えはそれで十分だったみたいで…、

凄く嬉しそうにギュっと抱きしめてくれた…。

その時私は、「世界一」幸せだった…。

でも…、幸せな時間はそう長くは続かなかった…。

日付けが替わる直前、クリスマスももう終わりかなって時間だった…。

駅前から歩いて帰る途中…、今後どうしようか話してた最中だったよね…。

赤信号を無視して来た車が私たち目がけて突っ込んできた…。

ヘッドライトが眩しくて、一瞬の出来事で、どうする事も出来なかった…。

もの凄く大きな音がしたと思ったら、そこから少しの間記憶がなくて…。

気付いたら私は倒れていた…。

朦朧とする意識の中で…、突っ込んできた車が視界に入った…。

停止した車の脇には…、君が横たわっていた…。

どうにか立ち上がった私は…、君の下（もと）によろよろと歩み寄った…。
そしてそれに気付いた…。

君が怪我をしてるって…。

それも普通じゃない怪我…。

一瞬で頭のスイッチが切り替わって、横たわる君に駆け寄った…。

君は…、息をしてなかった…。

さっきまで笑ってた顔…。

さっきまで握ってた手…。

さっきまで共に歩んでた足…。

全身が傷だらけだった…。

泣き出しそうな気持ちと、医師としての本能がせめぎ合ってた…。

駅からそう遠くない場所だったから、誰かが通報してくれたんだろうね…。

程なくして救急車が来て、私も無我夢中で乗り込んだ…。

隊員さんに医師である事を伝え、必死に応急処置をしようとした…。

しようとしたけど…、処置の施し様が思い当たらなかった…。

それ程君は…、傷付いていた…。

頭が真っ白になりそうになるのを必死に堪えた…。

泣き出したい気持ちをグッと抑え込んだ…。

助けてって叫びそうになるのを喉元に押し込めた…。

成す術もなく果然としている内に、病院に着いた…。

「ここからは入れません」そう言われて、君は緊急手術室へ消えていった…。

天国と地獄。

そんな感じだった…。

その時は何も考えられなくて…。

医師なのに何もしてあげられないっていう無力感だけがのしかかって来た…。
ただただ助かって欲しいって考える事しか出来なくて…。

医師のくせに…、祈って…。

祈って…。

祈り続けて…。

夜明け頃になって手術室のドアが開（ひら）いた…。

ご両親が安堵した表情をしていたから、一命は取り留めたんだって分かった。その瞬間、緊張の糸がプツンと切れて、私は意識を失った…。

目が覚めると、廊下のソファに寝ていて、君のお母さんが一緒に居てくれた。私が目覚めたのを見ると、「大変だったね」って、ニツコリと微笑んだ…。

大変なのは君と、そのご両親だったのに…。

その気遣いが嬉しくて、何も出来なかった自分が悔しくて、

私ったらお母さんの前でわんわん泣いちゃって…。

ようやく泣き止んだ頃に教えてもらった…。

お母さんによると、事故の原因は飲酒運転による信号無視。

さらにスピードの出し過ぎにより、制御不能になった事によるものだった。

私たちはそれに巻き込まれた…。

君は意識不明の重体…。

私は奇跡的に軽傷で済んだ…。

きつと君が守ってくれたんだよね…。

今でもそう信じてる…。

君は一週間後に意識を取り戻した。

ご両親も私も、手を取り合って喜んだ…。

でもそれも束の間…、君は記憶を失っていた…。

ほぼすべての記憶をね…。

これが私たちが出会って、そしてこの島に来る事になった全貌…。

かけがえのない思い出…。

決していい思い出とは言えないけど、君との大事な記憶…。

それが今…、戻ってきたんだよね…？

いま私が話した事…、齟齬（そご）はない…？

そっか…、本当に記憶が戻ったんだ…。

事故から二年…。

たった二年しか経ってないんだ…。

色んな文献を読み漁って…、持ってた知識を総動員して…。

毎日あの手この手で手探りしてたからね…。

まるで効果が表れなくて…、泣きそうになった時もあったんだよ…。

でも我慢した…。

泣くのは君の記憶が戻った時…、その時に残しておこうってね…。

だからさ…、このあと、ちよつと時間もらってもいいかな…？

うん…、ありがとう…。

え…？

やり直す…？

なにを…？

プロポーズ…？

い、いま？

ここで…？

私は構わないけど…。

あ、ちよつと待つて。

（深呼吸）すー…、ふー…。

よし…。

いいよ。

心の準備は出来た…。

うん…。

うん…。

うん…。

(大きく息を吸って小声) はい…、不束者ですが、よろしく願います…。

うん…、幸せにしてね…。

じゃあ…。

あのさ…。

ちよっと泣くから…、胸…、貸して…。

うん…、ありがとう…。

ねえ…。

あのね…。

お帰り…、なさい…。